

2023 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
経営学部 国際ビジネス学科	教授	佐々木 裕美
最終学歴	学 位	専門分野
愛知淑徳大学大学院文学研究科博士後期課程 単位取得満期退学	修士	米文学

I 教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

【理念】

「学生が主役」をクレドとして、学生一人ひとりが4年間の大学生活を自分でプロデュースするための教育活動を行っている。

【目標】

各学生が、4年間の大学生活に目標を持って取り組めるように支援する。正解探しではなく、結論に至るまでのプロセスを大事にする。

【方針】

知識を与えることよりも、知識を身につけて「使える」ようになることを重視する。

【計画（方法）】

学生の学びが深まるノート術を使って、目的を持って学修に取り組める方法を提供していく。ノートを書くことで、学生が自ら課題を見つけ、考え、行動できるように支援する。

【担当科目】

（前期）

アメリカの文化と社会、英語Ⅰ、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、文学

（後期）

英語Ⅱ、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ、文学

○教育方法の実践

方眼ノートを使ったノート術を伝えて、学生の学びを支援した。

○作成した教科書・教材

なし

○自己評価

授業については、概ね達成できたと考えている。できるだけ楽しい授業にして、学生の声を拾うよう心がけているが、どれだけ身につけているのかが確認できていない。

ノート術を手にした後の、学生の変化についての評価まで至らなかった。

II 研究活動

○研究課題

アメリカ文学研究・アメリカ地域研究

○目標・計画

【目標】

フォークナーの文学研究、Scott Heidepriem の著書の翻訳、先住民族の現状と課題等、滞っているものを一つずつ完成させていく。

【計画】

学会発表をしたままになっている文学研究論文の執筆、昨年度に実現できなかった先住民族の族長との面談（@インディアン居留区）を実現する。

○2016 年 4 月から 2024 年 3 月の研究実績（特許等含む）

（著書）

（学術論文）

（学会発表）

- ・佐々木裕美『『野生の棕櫚』における囚われの身と自由の身—シャーロットに向けられる視線を通して—』日本アメリカ文学会第 35 回中部支部大会（2018 年 4 月 21 日、愛知大学名古屋キャンパス）
- ・Tomomi Sasaki and Yuumi Sasaki, “ELTiS Workshop: Needs, Efforts and Outcome” JALT 43rd Annual International Conference on Language Teaching and Learning & Educational Materials Exhibition ポスター発表（2017 年 11 月 19 日、Tsukuba International Congress Center エポカルつくば）
- ・Laura Ebel and Yuumi Sasaki, “Integration of an American School on a Traditional Japanese Campus” 大学英語教育学会（JACET）第 43 回（2016 年度）サマーセミナー ポスターセッション（2016 年 8 月 18-19 日、京都大学吉田南キャンパス）

（特許）

（その他）

- ・日本アメリカ文学会中部支部 2019 年度 12 月ワークショップ『And Then They Came For Us』司会・コーディネーター（2019 年 12 月 7 日、南山大学）
- ・日本アメリカ文学会中部支部 2016 年度 12 月読書会『Ta-Nehisi Coates, Between the World and Me (2015)』司会・コーディネーター（2016 年 12 月 10 日、愛知大学名古屋キャンパス）

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

なし

○所属学会

アメリカ学会、日本アメリカ文学会・同中部支部、日本ウィリアム・フォークナー協会、愛知淑徳大学大学院英文学会

○自己評価

達成できなかった。個人の研究論文執筆については、停滞している研究論文を完成させることができなかった。また、Scott Heidepriem が闘病中であったことが判明し、翻訳作業が先に延びることが決まったため、成果として残すことができなかった。

しかし、グアム大学訪問をきっかけに本学との協定が成立したので、来年度に学生と一緒にやろうとしている SDGs への取り組みの可能性が広がった。

III 大学運営

○目標・計画

【目標】

経営学部執行部および教務委員会の構成員としての職務を遂行する。

【計画】

経営学部執行部では経営学部長のもと、教務委員会では教務委員長のもとで、職務を遂行する。

○学内委員等

経営学部執行部、教務委員

○自己評価

概ね達成できた。経営学部執行部および教務委員会の構成員として、職務を遂行できたと考えている。

IV 社会貢献

○目標・計画

【目標】

AFS 日本協会のボランティアとして、異文化学習プログラムをファシリテートするとともに、高校生の留学支援および国際交流の推進に努める。

【計画】

留学生の異文化理解を深めるためのオリエンテーションに参加するとともに、高校生交換留学試験対策のためのワークショップを開催する。

○学会活動等

今年度をもって、日本アメリカ文学会中部支部の幹事の職務を完遂した。

○地域連携・社会貢献等

高校生の留学支援の一環として、留学試験対策のためのワークショップを行った。

○自己評価

概ね達成できた。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学会交流、自己研鑽等）

特になし

VI 総括

学生がキャンパスに戻り、賑わいを取り戻した一年だった。一人ひとりが真摯に自分と向き合って、最高の学生生活を過ごすことができるように、これからも健康に留意して支援していきたい。

以 上